

出前授業・模擬選挙	模擬議会・議員との交流	大学・若者グループ等との交流	【参考】 学校・民間団体が主体の取組
地方公共団体主体	他の機関(税務署)と連携	若者議会・子ども議会	座談会等
小学生等	中学生	高校生	大学生・短大生・高専生
			特別支援学校生
			若者層(10~20代)

参考3 こども選挙実行委員会（神奈川県）

ちがさきこども選挙

■取組の概要

- ・茅ヶ崎市長選挙と同時期に、市内11か所に本物の投票箱を設置し、実際の候補者に子どもが投票する模擬選挙を実施。
- ・こども選挙委員による勉強会・ワークショップを開催して候補者への質問を考え、インタビュー動画をWebで公開。「こどもの声」も届けた。



実施概要

実施年度	令和4年度
対象者	市内の小学校1年生～17歳の児童・生徒
参加者数	566名（令和4年度）
事業規模（予算）	完全なボランティア活動で予算ゼロ（印刷費等の実費は10万円） （令和4年度）

■実施の経緯

<取組を開始するに至った経緯>

- ・こども基本法には「全てのこどもが意見を表明し社会活動に参加する機会が確保されること」が明記されているが、実施にはこどもが社会に関わる機会ほとんど存在していない、という問題意識があった。
- ・コワーキングスペースに集まる友人同士で「こどもの主体性」について話していたときにアイデアの一つとして出た。その後、茅ヶ崎市長選挙の実施に合わせて企画し、実行委員会を立ち上げて取組を開始した。

■実施の体制

<実施体制>

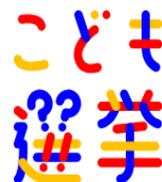
- ・10人の実行委員（うち8人はコワーキングスペースの会員）。元公務員、Webクリエイター、青年会議所、地元NPO代表、起業家等で構成。隔週の金曜に集まって取組を協議。

<外部との連携>

- ・浦和大学社会学部の林大介准教授、選挙ドットコムの高橋茂氏に外部アドバイザーを依頼している。

<全国展開>

- ・「全国こども選挙実行委員会」を設置し、すべての制作物とノウハウを共有し、交流・相互支援している。



■取組の効果・成果

- ・参加したこどもたちは選挙を楽しんでくれ、大人になったら絶対に投票するという声等、確かな主権者意識の芽生えが見られた。関わった大人にも意識の変化が見られ、市議選に立候補する大人も現れた。
- ・キッズデザイン賞、グッドデザイン賞、マニフェスト大賞等を受賞。



<これから取組を始める団体へのメッセージ>

茅ヶ崎で始まった「こども選挙」は偏見との戦いでした。「こどもの力を信じない大人の偏見」「選挙のタブー意識」を乗り越えて、全国に広げていきましょう！行政では難しいことも、市民がフットワークよく動き一緒にやっていけば突破できます！

★より詳しい情報はこちらへ 【こども選挙】 <https://kodomo-senkyo.com/>



■取組のステップとポイント

① 事前準備

【～8月21日】こども選挙委員募集

- ・ホームページ、タウンニュースで市内の小学生～高校生に公募し、15人のこども選挙委員を決定。

【8月31日】保護者説明会

- ・こども選挙委員全員の保護者に説明会を実施。公職選挙法に抵触しないように注意喚起。

【9月】勉強会・ワークショップ

- ・こども選挙委員向けに茅ヶ崎について意見を出し合うワークショップや民主主義についての勉強会を開催。
- ・候補者にインタビューする質問を考えるワークショップを実施。決定した3つの質問をビデオ撮影。

【10月】投票所・ポスター・回答ビデオの準備

- ・市内11か所の店舗や施設に投票所設置の依頼。
- ・投票呼びかけポスター・チラシ5,000枚を配布。
- ・候補者3名からの回答ビデオをホームページで公表。

【10月26日】投票所運営準備

- ・こども・大人計58名の運営ボランティアに説明会。
- ・投票用紙は小学低学年も記入しやすい記号式を採用。
- ・実際の投票箱と記載台を準備（選管が貸出し）。

<投票日（10月30日）>

- ・投票用紙の他に、候補者へのメッセージ用紙を用意し、希望者に記入してもらった。
- ・開票・集計は開票者2名と記録者1名の3人1チームとなってこども選挙委員が担当。



② 取組実施

<開票結果の公表>

- ・開票結果はホームページで公表。566名のこどもが投票。
- ・候補者へのメッセージが399個集まったため、手渡しまたは郵送ですべての候補者に届けた。



③ 実施後

【ポイント】

- ・「公職選挙法」上の留意点をこども本人及び保護者に4回にわたり注意喚起。
- ・「中立性」を保つため、客観的な講義内容とし、講師の考えの押し付けにならないよう徹底。候補者情報の取扱いも一切禁止とした



【ポイント】

- ・候補者への質問インタビューは、ビデオ撮影で行い、本人特定情報は掲載せず、候補者との直接接合を回避することで、こどもが危険にさらされないように配慮した。
- ・回答ビデオは、「公平性」を保つために条件を同じ（事前に質問を案内、回答時間・撮り直し回数・機材を統一、同意書にサイン等）にして、ビデオの掲載順は届出順とした。



投票を呼び掛ける風船とポスター・チラシ

【ポイント】

- ・「誰に投票したかを誰にも言わないで!」というアナウンスを投票所内で徹底。

【ポイント】

- ・こども選挙の開票結果は、実際の選挙終了後に公表。